



たりを見据え何かございますか。

市長 現在は地域の一体感は相当進んだと感じています。また議会も1市1区になりましたし。これからは、今までの取組みが土台となつて、一つの高山市がどつちの方向に向かつていくかということを考えなければなりません。そのためには、少子高齢化であつたり、経済問題などの個々の課題をきちんと整理しつつ、解決していくことが私たちの世代の責任だと思えます。

議長 市長の言うとおり一体感は醸成し、制度的にも落ち着いてきましたね。次の勝負は今からです。持続可能な地域づくりも大事です。私は「老後は高山で暮らしてみたいな」つてみんなが思うほどの独特な施策があつてもいいと思う

んです。

ただし一方で、財政的にはほとんど苦しくなりますので、政策の精査は必要だと思えます。

市長 そうなんです。財政は今後厳しさを増すばかりです。だからその点は覚悟しなければならいんですね。今まで受けていたサービスが十分受けられない時代が訪れることも覚悟しなければならい。もちろん、行財政改革は引き続き断行します。

その上で、将来の課題をみんなできちんと議論していく一方、心の満足度を満たしていくことも考えていかなければならないと思つています。

―合併時と今では社会情勢も変わつて、新しい課題も出てきてますよね。地球温暖化対策であつたり、



新エネルギーであつたり。

議長 そのとおりです。日本一広大な市域を有する高山市は、広いゆえのリスクもあります。道路や橋もたくさんあるので維持することにも多くのお金がいります。

しかし、広大であるがゆえに、例えば森林面積が地域の約92%もあるまちのメリットもあります。そこには新たな公を生み出すチャンスもあります。高山市しかできない、高山市だからこそ可能性がある、そんな発想を持つて、昨今課題になつている新エネルギー・自然再生エネルギー問題に取り組むと、私たちのまちには大きなチャンスもあると思えます。

これから先の10年後を見据えてまちの方向性をしっかり作る。「こんなまちをつくりたい」というすなわちシンボル「錦旗」を掲げ、市民の皆様とともに、よりよい希望の匂いが常にするまちを目指して、共有したいですね。

市長 平成26年度で第七次総合計画は終わりますので、今年から新

計画の準備に取りかかりたいです。その際は、皆様と議論を深め「こういうまちを創りたい」という錦旗をどん！と立てたいですね。

そのためには、主人公である皆様との「対話」「参画」「公開」の3本柱をきちんと進めてまいります。

高山らしきとは

―高山にはいろいろなセールスポイントがあると思うんですが、今ほど話題にのぼっている自然であつたり。

市長 私は高山らしきは文化力の高さだと思つています。文化力に呼応して地域力も高まつていくのではないのでしょうか。文化に憧れ、希望、夢など魅力を感じていただけることは大事だと思います。何も古い町並のように目に見えるも

